

『国連研究』第13号 原稿募集

2011年6月25日

日本国際連合学会 編集委員会

日本国際連合学会 会員のみなさま

『国連研究』第13号(2012年6月刊行予定)の原稿を下記の要領で募集いたします。会員のみなさまからたくさんの応募をいただき、学会誌を通して有意義な議論ができますように願っております。ふるってご応募ください。

1 募集原稿の種類

1) 特集テーマ「日本と国連」に関連する論文

本年2011年は、日本が国連に加盟して55年目にあたります。その年に、日本国際連合学会として、はじめて、「日本と国連」というテーマに光をあてることにいたしました。加盟55年目という時期的に区切りとなる年に特集を組むことで、本学会として日本と国連の関係を整理・分析し、今後を展望し、国連研究のひとつの道しるべとしたいと考えたからです。また、本特集での議論を通して、日本国際連合学会が日本と国際社会に対してその社会的使命を果たすことができればと考えました。

日本と国連の55年にわたる歴史、安全保障分野や開発など経済・社会的分野での国連活動、安全保障理事会改革を含む組織と制度の問題、人間の安全保障などの新しい規範づくりに果たす役割、国連事務局・スタッフに関する人的問題など、日本と国連との関係にかかわる諸問題を、多角的な視点と多様な学問領域、研究者と実務経験者の立場から豊かに議論していただけますことを期待します。

2) 実務家等の視点に基づく政策レビュー

『国連研究』では、研究者による論文に加えて、実務家の方々による現場の目を通した論考も掲載しています。国連における、また国連に対する政策レビューや提言などをお寄せください。国連学会は理論と実務をつなぐ学会としての性格を大切にしています。

3) 独立論文

特集テーマとかかわらない書き下ろしの論考は「独立論文」として投稿を受け付けています。特に、若手研究者による研究発表の場として、投稿を歓迎します。

4) 書評論文

13号より新たなセクションとして加わります。国連研究ならびに広く国際関係研究に貢献をしたと評価できる関連する複数の編著書(和文・欧文)を紹介・批評し、議論を展開する論考です。

5) 書評

一冊の編著書(和文・欧文)が国連研究ならびに広く国際関係研究にどのような貢献をしたかについて紹介・批評するものです。原則として過去2年以内に出版された学術書を対象とします。執筆希望(書評対象書を明記)の申し込みの他に、書評対象書と書評

者の推薦も受け付けています。

2 応募方法と締め切り

1) から 4) の論文タイトルおよび論文趣旨 (800 字程度)、ならびに 5) の書評執筆申し込みまたは書評対象書と書評者候補の推薦を、2011 年 8 月 7 日 (日) までに下記宛でお送りください。

電子版でのご提出をお願いします。

〒 187-8577 東京都小平市津田町 2-1-1 津田塾大学内
大泉 敬子 (『国連研究』 編集担当)
E-mail : oizumi@tsuda.ac.jp

3 採否

1) から 4) に関してお送りいただいた論文タイトルと論文趣旨ならびに 5) の書評に関する執筆申し込みと書評対象書・書評者の推薦を検討し、まず「執筆」の可否を決定してご連絡いたします。

「執筆可」の場合には、原稿をご執筆いただき、11 月 20 日 (日) までに完成原稿をご提出ください。提出原稿は、編集委員会が依頼する査読を経たのち、修正が必要な場合には修正をお願いした上で、最終的な「掲載の可否」を決定いたします。

4 応募ならびに完成原稿の提出締め切り日程

応募 (論文のタイトルおよび趣旨、書評の執筆申し込みと推薦)	2011 年 8 月 7 日 (日)
完成原稿 (特集論文、政策レビュー、独立論文、書評論文、書評)	2011 年 11 月 20 日 (日)
『国連研究』第 13 号発刊予定	2012 年 6 月

5 執筆要領の「執筆上の一般的注意」より

現在、執筆要領ならびに編集要領の改訂中であるため、改めてホームページに掲載することとします。ここでは、「執筆上の一般的注意」の概要のみを記載しますので、参考になさってください。

【原稿】

- ・ 筆者オリジナルの書き下ろしのものとする。
- ・ 原稿は和文もしくは英文による。
- ・ 書評論文と書評を除き、原稿には英文サマリーを添える。
- ・ 原稿はワードファイルで編集主任へ送付する。

【原稿字数】

- ・ 書評と書評論文以外は、注と図表を含めて 20,000 字以内とし、横書きとする。
- ・ 書評論文は、注を含めて 10,000 字以内とする。
- ・ 書評は、4,000 字以内とし、注は付けない。

以上